

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470200544	
法人名	医療法人 社団 仁明会	
事業所名	グループホーム青葉	
所在地	石巻市門脇字一番谷地57番地の19	
自己評価作成日	令和 5年 2月 2日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会	
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階	
訪問調査日	令和 5年 2月 24日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム青葉は経営母体が医療法人で、老人保健施設併設でもある為、日常の健康管理及び体調の急変の際には迅速に対応できるような病院・老人保健施設との連携を確保しています。また、できるだけ自立して生活していただくように、できる範囲で、ご自分で行っていただくように支援しており、「年を重ねるごとに自分らしく、笑顔を絶やさず楽しく健康的に生活したい」をスローガンに掲げ、入居者の皆様がゆったり穏やかに、一人一人のペースですごせるように取り組んでいます。職員は、楽しみと親しみを持って入居者の皆様と関わっており、皆で明るく笑顔と笑いの絶えない日々を送っています。

石巻河南IC南方2kmの静かな住宅街に1ユニットのホームがある。併設の介護老人保健施設と隣接し、老健の医師や看護師による健康管理の支援等があり、医療機関との連携が入居者や家族の安心に繋がっている。運営推進会議は書面で行われており、メンバーから避難訓練等に関する意見や感想が話し合われている。コロナ禍で外部との接触は制約されているが、天気の良い日は周辺の散歩等を楽しみ、家族との面会は玄関でしている。入居者はゲームや懐かしい歌を歌い、居室で仲間とお茶やおしゃべりを楽しむ等、家庭的な雰囲気でも過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム青葉 )「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針及び基本理念を基に年間目標を掲げ、目標達成に取り組んでいる。	運営方針及び基本理念を継承し、「年間目標」「接遇目標」は前年度を振り返り新しく作った。入居者の身になって寄り添い、入居者が自分の家のように、打ち解けて何でも話せるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の中学校との交流があり、クリスマスに中学校の吹奏楽部の生徒がホーム前でコンサートを開いてくれる。	町内会に入っている。行事の案内はコロナ禍で参加を自粛している。家族からドーナツやミカン等の差し入れがある。誕生会に寿司やケーキを地域の店から届けてもらう。吹奏楽を演奏する中学生の姿に入居者が喜ぶ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス流行により、現在は行っていないが、中学校の職場体験学習を受け入れたり、行事を通じて地域の方々と関わりあう機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況の報告を行い、各議題に沿って意見やアドバイスをいただき、サービスの向上に努めている。現在は、書面での開催となっており、資料に沿って意見を聴取している。	メンバーは町内会長や市介護保険課職員、民生委員、老健事務長、家族、入居者である。避難訓練の気付きの意見を貰ったり「中学生のクリスマスコンサートは微笑ましい」等の感想があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員に参加していただいている(現在は書面での開催)。また、市の地域密着型サービス運営委員として委員会に参加している。	介護認定や介護保険更新の手続きについて相談や助言を得ている。コロナ感染の注意喚起がある。ホームの電気代等高騰に対する助成の情報提供があった。アンガーマネジメントや感染予防等出前講座の案内がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠せず、行動の制限をしないようにしている。2カ月に1回「身体拘束を行わない為の適正化委員会」を開催している。研修会に参加し身体拘束への認識を深める努力を行っている。	入居者の行動を制約しないよう留意している。車椅子で転倒の恐れある入居者が衣服整理に夢中になっている時に、職員が10分おきに見守り声掛けをしている。帰宅願望の入居者にはお茶に誘ったり「遅いから明日に」と話題を変え、対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加して虐待について学習している。普段の何気ない一言でも虐待や身体拘束になりうることを理解し、穏やかな対応ができるよう励んでいる。	優しく丁寧な対応に努めている。入浴を洗る人へ促す声掛けが強い時「さっきの言い方は入居者にきついかも」と個別に注意する。言葉遣い等で気付いた事項を管理者がミーティングで伝え、注意喚起している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて理解を深めている。必要があれば支援するよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を用いて、疑問点を伺いながら納得していただけるよう説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と会話をしながら要望の聞き取りを行っている。家族に対しては、来訪時や電話連絡の時に要望を伺っている。また、相談・苦情等の相談窓口として第三者委員をお願いしている。	利用料金を直接支払う事で、家族の要望を聞く機会となり、面会もできている。足の浮腫みが強い入居者への対応の要望に、ベッドで足を高くするよう支援している。遠方の家族が話したい希望に電話を取り次ぎ支援する。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りの際に、随時、意見や提案を聴き、運営に活かしている。また、運営会議や安全衛生委員会等に管理者が出席しており、意見や提案を代表者に伝えやすい環境にある。	遅番の食事作りを職員がやりやすい時間配分に改善した。朝方に失禁が多くなった入居者に夜だけオムツにした。介護休暇や夜勤困難の職員等の要望を配慮したシフトにした。歯の痛い人にお粥等を提供した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト表は各自の希望をできる限り反映し、働きやすい職場環境作りに努めている。又、法人独自の考課制度にて実績や成績の反映を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会に参加している。又、個人の能力に沿った指導を行なっている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接する老人保健施設の職員との交流や意見交換の場がある。又、利用者の入所時に、担当ケアマネジャーや、退所先の職員から、介助方法等の指導をしていただいている。	グループホーム連絡協議会から同業者の情報を得ている。法人の老健の職員との毎月の運営会議や月2回の部門別委員会に参加している。老健の医師や看護師による健康状況管理の指導や支援を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話をよく伺い、日常の介護に努めている。言葉でうまく表現できない方には、行動や表助を観察しながら、必要な介助を行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の時から、不安や悩み・要望等、何でも話し合える関係作りを行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係者、家族、本人から、良く話を伺い、必要に応じて対応を行なうよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の能力を確認し、洗濯物たたみや掃除機がけなど可能な動作を行なっていたり心掛けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態を報告し、利用者の生活状況を把握して頂いている。職員の対応では困難な場合は、家族の協力を得たりと共に支えていく関係作りを努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、感染予防に重点を置いて生活して頂いている事から、現在は、家族のみ距離を取って面会をして頂いている。	病院への通院時に好きな買い物をする。遠方の息子と電話でおしゃべりをする。ホームで茶飲み仲間ができ、居室に遊びに来た人がその部屋の人のベッドに寝ていたりする。理美容は慣れた職員が実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に配慮しながらテーブルの席を配置し、孤立せず良好な関係を築いていけるよう職員が間に入り支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所となっても、その後の利用者の状態を電話で確認したり、退所後の方向性について相談を行なっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向や希望を伺い、出来る限りそれに沿えるよう努めている。	テレビの歌謡曲が好きである。おやつに饅頭やアイスクリームが人気がある。通院時好きな飴を買う。職員にファンデーション等の購入を頼む。日常の様子から思いを引き出し、寄り添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前にバックグラウンドについて伺い把握するようにしている。利用後も家族の面会や、本人との会話の中から把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一般状態の観察、申し送り、各記録類の確認を行ない把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回モニタリングを行なっている。また、必要時に職員から意見を聞いて、現状に即した計画書を作成している。	担当職員がモニタリングし、職員の意見を入れ、計画作成担当者がまとめる。「出来ることを手伝いさせて欲しい」の要望に、掃除や洗濯物畳み等を盛り込む。浮腫みへの対応や「夜だけオムツ」を計画し支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度記録し、毎日の申し送りの中で職員から情報を提供して頂き、情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族等の状況や要望に沿った柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	受診時に介護タクシーを利用したり、誕生会には近隣の店から出前を取ったり、誕生ケーキを届けて頂き、社会資源の活用を行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医療機関への受診となり、病院側からの理解と協力も得られている。それ以外の病院には家族・本人の意向にそった病院を受診できるよう配慮している。	協力医以外の通院は整形外科と歯科である。通院時は職員が付き添い、必要に応じ家族も付き添う。医師への情報は職員が口頭で伝える。隣接の老健から看護師が週1回、医師が月1回、健康状態を確認している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の医師と看護師により健康チェックや相談・指導をして頂いており、緊急時にも迅速な協力を得られる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者・家族との情報交換・連携を密に行い、入退院がスムーズに行われ、退院後もできる限りホームに戻れるよう努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針を定め、家族に説明し同意を得て、意向を伺っている。	指針により重度化した場合の対応や看取りに関し、終末期を迎えたい場所や延命治療等について家族に確認し同意を得ている。入浴ができなくなった場合や嚥下ができない状態、継続的医療行為が必要になるとホームで対応できず、病院に入院する方が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、マニュアルを作成し、自由に閲覧できるようにしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設・保育所との連携した防災訓練の他、宮城県原子力防災訓練に参加している。	防火訓練を書面で老健と実施し、全職員が手順や通報例等を再確認している。原子力防災訓練で受け入れ手順を確認している。災害発生時、老健からの支援が期待できる。ホーム独自の避難訓練も検討して頂きたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者からの目を意識し、さりげない声掛け・対応を心がけている。プライバシー保護に関するマニュアルがあり、職員が各自閲覧できるようにし意識の向上に努めている。	優しい言葉遣いでスピーチロックにならないよう留意している。失禁の時「ちょっとお部屋へ」や耳元で「お手洗いに」と誘う。下着姿のままフロアへ出て来ようとする人に、周囲に気付かれる前に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度、意向を伺い対応している。利用者の状態に合わせて、選択肢を用いたり、利用者の立場になって考えた対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくり起きたい方や居室での生活を大事にしたい方、気の合った方と関わり合いたい方等、それぞれのペースで自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をする方には希望の品を準備している。入浴の時などに自分の着たい服を選んでもらうなどしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理中の音や匂いで食事への楽しみを見出している。可能な方には、下膳の手伝いを行っていただいている。職員が、利用者の嗜好や季節感のあるメニューを作成している。	郷土食のおおひらうどん(椎茸や油揚げ等のあんかけうどん)が好みである。行事食にちらし寿司や誕生食に寿司の宅配で楽しむ。職員も一緒に食事をする。同法人の管理栄養士に栄養バランスの助言を貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士にバランスやカロリーをチェックして頂いている。個々の状態に合わせた食事形態を心掛け、チェック表で摂取量や体重の増減を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その都度、声掛けや介助を行い、清潔を保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はできる限りトイレで排泄できるよう支援している。チェック表を用いて排泄パターンの把握に努め、その人に合ったトイレ誘導を行っている。	自立の人は1人で、他の人はリハビリである。ソワソワしたり立ち上がりキョロキョロする等排泄の合図を見逃さずトイレに誘う。夜だけオムツが3人で、その中で排泄の意思表示がある人はトイレに誘導する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて把握し、運動の他、食物繊維や乳製品多く含む食事を提供している。また、下剤の調整を行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	最初に入りたい方、最後に入りたい方棟、希望に沿えるよう配慮している。拒否のある方へは、機会を改め、受け入れの良いときに介助を行っている。	洗髪を嫌がり入浴拒否の人がおり、職員を交代して声掛けしたり翌日に延期する。浴室で、歌を2回歌ってから上る人や昔の仕事の話をしたりする。好みの色の入浴剤やゆず湯を楽しむ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースで、好む場所で自由に休息できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表をファイリングし、職員一人一人が、薬の目的、副作用、用法、容量について正確に把握している。誤訳が無いよう、準備、確認、投薬時の確認と三段階の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力や好みを活かして、役割や楽しみ事を行い、気分転換をしていただいている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、気晴らし観光は自粛している。天気の良い日に、敷地内を散歩するなどしている。	天候の良い日にホーム周辺を散歩する。近所の保育園児に堀越しに手を振って挨拶する。中学校のグラウンドで元気に運動している生徒の様子を眺められる。ホームのウッドデッキで、庭の花見をしたりお茶を楽しむ。外に洗濯物を乾かすときに日光浴をする。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金とは別に、ご自分でお金を持っている方がおり自由にお金を使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からいただいた電話の取次ぎを行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気の発光色を、優しい色にしている。生活空間の整理整頓を行い、生活しやすい環境を整えている。お月見の時期やお正月や、ひな祭り等、季節に応じて飾りつけを行っている。	フロアは広々として明るい日差しが差し込んでいる。手作りカレンダーや見やすい時計がある。紙粘土で作った団子の月見飾りやひな祭りの人形を飾り季節を感じた。壁に塗り絵や習字を飾っている。懐かしい歌を歌ったり、ゲームをして楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファを設置し。利用者同士でソファに座り、テレビを見たり会話をしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅と同じ要に、遺影や位牌を、家具を持参している方がいる。利用者の状況に応じて、心地よく過ごせるよう配慮している。	エアコンやベッド、クローゼット、洗面台が備付けである。家族の写真や花の写真を飾っている。テレビを観たり雑誌を届けてもらって読んでいる。仲間が居室に来てお茶を飲んだりおしゃべりを楽しみ、自分の部屋としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日付や場所を認識できるよう、手作りのカレンダーを設置したり、必要な箇所に張り紙を張っている。		